

イオラニ、 プナホウへの道



ドクター高橋俊明
心理学博士
ドクター高橋塾塾長
宮崎県出身。東京教育大
理学部生物学科卒業。東
京教育大教育学部心理学科で修士号取得、ハ
ワイ大心理学部で博士号取得。1968年に川崎
市、69年に文京区、そして77年にホノルルに
塾を設立。2015年は、塾からカメハメハ校に2
人、ハナハウオリ校に3人、イオラニ校に35人、
プナホウ校に70人合格。
Web: www.juku-in-hawaii.com
☎ 808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

【その133】夢を叶えた留学生たち

77年にホノルルで塾を始めた頃は、日本からハワイに移住する家族が少しずつ増え始めた時期でした。当時、来塾する生徒の求めるものは、主として次の5つ。第1は、日本の主要教科の勉強、第2は、ハワイの教育に順応する勉強、第3が、ハワイの学校での苦手克服の勉強、第4が英会話、第5が日本語の勉強です。しかし、25年前の日本のバブル崩壊を機に地元

の仲間がやってくるので、ここでは落ち着いて勉強できない。どこか遠くに行つて、勉強に集中したいのだが、どうしたら良いか？」と聞いてきたそうです。そこで、ハワイの友人に薦められて塾に来られたのです。

私は、「本人が真剣に大学進学を望んでいるのなら、お手伝いできます。塾では、高校3年分を6週間で教えることができます」と確約しました。毎日8時間の個人教授を週7日間、6週間(合計336時間)行うプランです。はるばるやって来たのは、やる気満々の青年でした。彼は、数学、英語、現代国語、漢文、古文、世界史、日本史、政治経済、物理、化学、生物のすべてを6週間で修得。帰国後、見事に大学検定試験に合格し、複数の大学を受験し、3つの大学に合格したとの朗報がハワイに届きました。

しかし、日本の教科に関しては、とても優秀で、数学も良くてきました。生徒自身が来年からプナホウ校に進学したいという希望を持っており、ご両親は、その夢を叶えてあげたいと必死でした。

元留学生が多くなり、第6としてプナホウ・イオラニ校の受験勉強と、第7の大学受験勉強(SAT、ACTやエッセイの書き方)が加わりました。今回は、その中の第1と第6について、塾ならではのユニークな勉強法の実例を紹介いたします。

不登校生が大学進学

ある時、富山県で幼稚園の園長をしている母親が20代になる息子さんのことで相談にみえました。話を伺うと、その息子さんは高校生の時、不登校になり、高校を中退せざるをえなくなり、暴走族に入ってしまった。ところが最近、その息子さんが、「もう一度、勉強をしたい。高校卒業資格をとり、大学に進学したい。だけど、昔

の仲間がやってくるので、ここでは落ち着いて勉強できない。どこか遠くに行つて、勉強に集中したいのだが、どうしたら良いか？」と聞いてきたそうです。そこで、ハワイの友人に薦められて塾に来られたのです。

私は、「本人が真剣に大学進学を望んでいるのなら、お手伝いできます。塾では、高校3年分を6週間で教えることができます」と確約しました。毎日8時間の個人教授を週7日間、6週間(合計336時間)行うプランです。はるばるやって来たのは、やる気満々の青年でした。彼は、数学、英語、現代国語、漢文、古文、世界史、日本史、政治経済、物理、化学、生物のすべてを6週間で修得。帰国後、見事に大学検定試験に合格し、複数の大学を受験し、3つの大学に合格したとの朗報がハワイに届きました。

広・略・要の三種の勉強法

鎌倉時代、日蓮は悟りを最終目的とする仏道修行法に「略・要(こう・りやく・よう)」の3つがあると述べています。実は受験勉強にも同じように、広・略・要の3種類の勉強法があります。「広」とは、幅広く全

日本から来てプナホウ校10年生に合格

日本の私立中学に通っていた生徒が来塾したのは、暑い盛夏の7月末でした。すでにハワイでESLのある私立校に合格していて、秋学期から通うことになっていました。学力は、英会話はほとんどできず、単語力は小学校低学年レベル。

体にはわたる知識を身につけるため、広く浅くゆっくり学ぶものです。江戸時代の旅に例えれば、風景を楽しみながら、東海道を徒歩でのんびり行くようなものです。「略」とは、より重要な箇所を簡略して学ぶ方法です。旅に例えれば、早かごに乗って急いで行くことに例えられます。「要」とは、目的地に馬を飛ばして行くように、合格という目的にダイレクトに進む勉強法です。多くの生徒と一緒に教える学校教育は、「広」です。予備校や多くの学習塾などの学習法は、「略」です。仏道修行に関して日蓮は「広略を捨てて肝要を好む」と述べ、独自の修行法を確立しました。

同様に、私も「広・略」の勉強法を捨てて、肝要を好む独自の個人教授で、受かるための学習を実践しています。これは、私自身が、日本の恩師、故岩原信九郎先生(日本心理学会副会長、東京教育大学教授、筑波大教授を歴任)にたたきこまれた大変ユニークな学習法です。

でも、必須の上級SATを1月までに受けるには、8月からの5カ月余で少なくとも9年生レベルの英語、数学、作文力、英会話力にもついていかなければなりません。私は、次のような提案をしました。「学校に通いながらの受験勉強では、短期間に合格レベルまでもつていけません。毎日、学校の宿題をやるだけで、1日が終わるでしょう。週末も、学校の勉強で手いっぱいになり、SATの勉強をやる余裕などありません。間違いなく合格するには、毎日8時間の個人教授を、週6日間、5カ月間やり抜きましょう。これなら、勝てる自信が私にあります。」

数日後、ご両親が塾に再び来られ、私の提案通り受験勉強をする決意をしたと報告に來られました。生徒は、わずか6人しか空きのなかった10年生に10倍もの倍率の中で見事合格しました。一見不可能に思える夢も、生徒本人が本気なら、実現できます。そのために、塾があり、私自身がいるのだと思いません。